

総合的な学習の時間

目 次

1	総合的な学習の時間の改訂のポイント	1
2	総合的な学習の時間の目標のポイント	1
3	各学校において定める目標及び内容のポイント	3
4	指導計画の作成と内容の取扱いのポイント	4
5	総合的な学習の時間の指導計画の作成のポイント	6
6	総合的な学習の時間の年間指導計画及び 単元計画の作成のポイント	8
7	総合的な学習の時間の評価のポイント	9
8	総合的な学習の時間の学習指導のポイント	10
9	総合的な学習の時間を推進するための 体制づくりのポイント	11
10	指導例	12

1 総合的な学習の時間の改訂のポイント

(1) 改善の基本方針

- 体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図り、思考力・判断力・表現力等をはぐくむとともに、教科と一体となって生徒の力を伸ばす。
- 総合的な学習の時間の教育課程における位置付けを明確にし、各学校における指導の充実を図るため、総則から取り出し新たに章立てをする。
- 総合的な学習の時間と各教科等のそれぞれの役割を明確にし、これらの円滑な連携を図る観点から、ねらいや育てたい力を明確にする。
- 小・中・高等学校の取組の重複の状況を改善するため、生徒の発達の段階を考慮し、各学校における実践を踏まえ、学習活動の例示を見直す。

(2) 総合的な学習の時間の改訂の要点

- ① 目標及び内容の改善
 - ・総合的な学習の時間の特質や目指すところを目標として示し、この時間において育成する生徒の資質や能力及び態度を明確にする。
 - ・国が示す目標を踏まえ、より具体的な目標や内容は、各学校において定めることを明確に示す。
- ② 内容の取扱いの改善
 - ・総合的な学習の時間では、探究的な学習になることを目指す。
 - ・学校間の取組の状況に違いがあることを改善するために、総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度の視点を例示する。併せて、小・中・高等学校の取組の重複の状況を改善するために、中学校では「職業や自己の将来に関する学習活動」を例示として加える。
 - ・体験活動を行うことによって生徒の学習を一層充実したものにするため、体験活動と言語活動を共に充実させる。

2 総合的な学習の時間の目標のポイント

(1) 目標の構成

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

目標には、総合的な学習の時間のねらいや育てようとする資質や能力及び態度を明確にし、その特質と目指すところが端的に示されている。



総合的な学習の時間の目標を構成する五つの要素

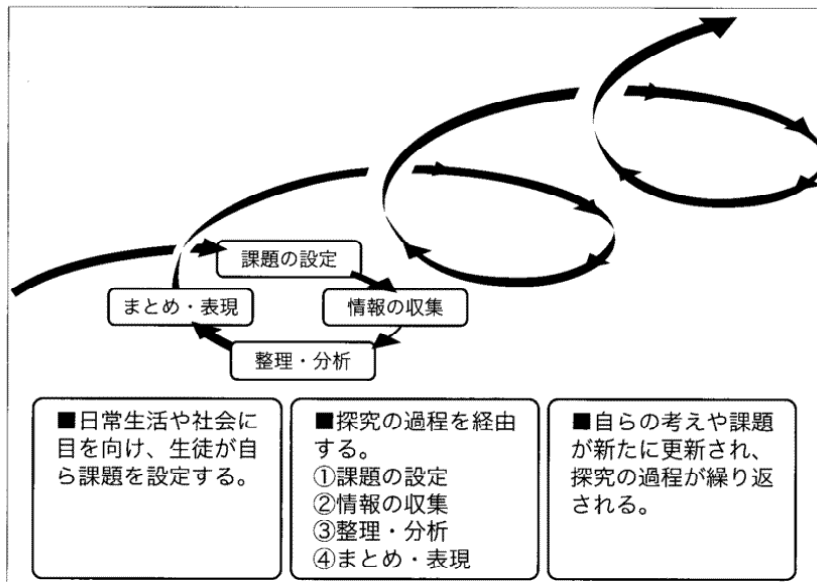
- ① 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ② 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- ③ 学び方やものの考え方を身に付けること
- ④ 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤ 自己の生き方を考えることができるようにすること

(2) 目標の趣旨（五つの要素から考える）

- ① 横断的・総合的な学習は、一つの教科等の枠に収まらない課題に取り組む学習活動を通して、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活に生かし、それらが生徒の中で総合的に働くようにすることをねらいとしている。

探究的な学習とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく下図のような一連の学習活動である。生徒は、日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け（課題の設定）、そこにある具体的な問題について情報を収集し（情報の収集）、その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み（整理・分析）、明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始める（まとめ・表現）といった学習活動を発展的に繰り返していく。このような物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みが探究的な学習である。

探究的な学習における生徒の学習の姿



- ② 「自ら課題を見付け」とは、解決すべき問題と向き合って、自分で取り組むべき課題を見出すことである。また、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し」とは、自ら見付けた課題に関して主体的に学習活動を繰り返して、自分なりに納得できる答えを探し求め、判断していくことである。さらに、「よりよく問題を解決する」とは、解決の筋道がす

ぐには明らかにならない、唯一の正解が得られないなどのことについても、自らの知識や技能等を総動員して、目の前の具体的な問題に粘り強く対処し解決しようとするものである。

- ③ 「学び方やものの考え方を身に付ける」とは、横断的・総合的な学習や探究的な学習の過程において、それらを現実の様々な状況に応じて活用し、確かにすることである。
- ④ 問題の解決や探究活動では、生徒が身近な人々や社会、自然に興味・関心をもち、それらに意欲的にかかわろうとする主体的、創造的な態度が欠かせないものであり、これからの社会においては、他者と協力しながら身近な地域社会の課題の解決に主体的に参画し、その発展に貢献しようとする態度をはぐくむことが必要とされることから、協同的に取り組む態度を育てる必要がある。
- ⑤ 「自己の生き方を考えることができる」とは、人や社会、自然とのかかわりにおいて自らの生活や行動について考えていくこと、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくこと、これらを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることである。

3 各学校において定める目標及び内容のポイント

各学校は、第1に示された総合的な学習の時間の目標を踏まえて、各学校の総合的な学習の時間の目標や内容を適切に定めて、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する必要がある。なお、総合的な学習の時間が充実するために、小学校や高等学校との接続を視野に入れ、連続的かつ発展的な学習活動が行えるよう目標を設定することも重要である。

(1) 各学校において定める目標

1 目標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

各学校の目標は、学校の教育目標との関連性を考慮しつつ、総合的な学習の時間の取組を通して、どのような生徒を育てたいのか、また、どのような資質や能力及び態度を育てようとするのか等を明確にしたものである。



各学校において目標を定めることが求められているのは……

- ・各学校が創意工夫を生かした横断的・総合的な探究活動を実施することが期待されている。
- ・各学校で定めた目標に従って、育てようとする資質や能力及び態度を明確に示すことが望まれている。
- ・学校として教育課程全体の中での総合的な学習の時間の位置付けや各教科との関連を明らかにして、この時間で取り組むにふさわしい内容を定める。

(2) 各学校において定める内容

2 内容

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

各学校は、内容として、目標の実現のためにふさわしいと判断した学習課題を定める必要がある。学習課題とは、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題、職業や自己の将来にかかわる課題のことであり、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結び付いていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。



内容を定めるに当たって……

- ・各学校においては、生徒が探究的にかかわりを深めていくひと・もの・ことなどの学習対象を明らかにする。
- ・学習対象とのかかわりを通して学ぶことが期待される学習事項を定める。
- ・日常生活や身近な社会とのかかわりを重視し、その時々により最適な学習課題が何かを適宜判断する。
- ・学年間の連続性、発展性や小学校、高等学校との接続、各教科等との違いや関連性などに配慮して、内容を指導計画に適切に位置付ける。

4 指導計画の作成と内容の取扱いのポイント

(1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

- (1) 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示すこと。その際、小学校における総合的な学習の時間の取組を踏まえること。
- (2) 地域や学校、生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習、生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。
- (3) 各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会とのかかわりを重視すること。
- (4) 育てようとする資質や能力及び態度については、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。
- (5) 学習活動については、学校の実態に応じて、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や

自己の将来に関する学習活動などを行うこと。



職業や自己の将来にかかわる課題は、義務教育の最終段階にある生徒にとって、切実かつ現実的な課題である。この課題について、具体的な体験活動や調査活動、仲間との真剣な話し合いを通して学び合う機会をもつことは、生徒が自己の生き方を具体的、実際的なものとして考えることにつながる。また、自己の将来を力強く着実に切り開いていこうとする資質や能力、態度の育成において、極めて重要である。

- (6) 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。
- (7) 各教科、道徳、外国語活動及び特別活動の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。



総合的な学習の時間に行われる自然体験活動は、環境や自然を課題とした解決や探究活動として行われると同時に、特別活動における旅行・集団宿泊的行事と、また総合的な学習の時間に行われる職場体験活動やボランティア活動は、社会とのかかわりを考える学習活動として行われると同時に、勤労生産・奉仕的行事と、それぞれ同様の成果も期待できると考えられる。このような場合、総合的な学習の時間とは別に、特別活動として改めてこれらの体験活動を行わないとすることも考えられる。

- (8) 各学校における総合的な学習の時間の名称については、各学校において適切に定めること。
- (9) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、総合的な学習の時間の特徴に応じて適切な指導をすること。

(2) 内容の取扱いについての配慮事項

- (1) 各学校において定める目標及び内容に基づき、生徒の学習状況に応じて教員が適切な指導を行うこと。
- (2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
- (3) 自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

- (4) 体験活動については、第1の目標並びに各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けること。
- (5) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教員が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。
- (6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。
- (7) 職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

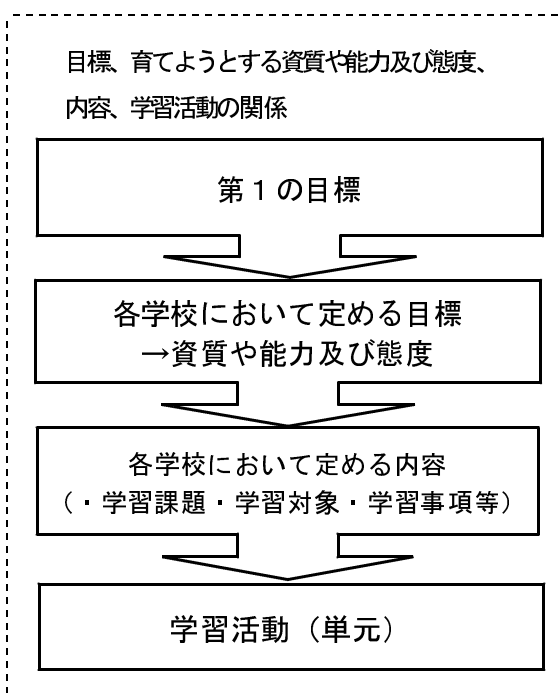
5 総合的な学習の時間の指導計画の作成のポイント

(1) 総合的な学習の時間における指導計画

教育課程には、その学校における教育活動の計画が、全領域、全学年にわたって記される。指導計画とは、この教育課程の部分計画である。指導計画の作成に当たっては、以下の七つについて考える必要がある。

- ① この時間を通してその実現を目指す「目標」
- ② 目標を実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」
- ③ 「目標」の実現にふさわしいと各学校が判断した学習課題等からなる「内容」
- ④ 「内容」とのかかわりにおいて実際に生徒が行う「学習活動」（実際の指導計画では、「単元」、さらに単元を配列し、組織した「年間指導計画」として示される）
- ⑤ 「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」
- ⑥ 「学習の評価」
- ⑦ 「指導体制」

指導計画の作成に当たっては、全体計画と年間指導計画の二つを作成し、①～⑦の事項をどちらかの計画の中に示す必要がある。



(2) 各学校において定める目標の設定

各学校は総合的な学習の時間の教育活動が創意工夫に満ちた、豊かなものとなるよう、

総合的な学習の時間の目標を慎重に定める必要がある。その際、第1の目標を構成する五つの要素を含むよう配慮することが必要である。また、五つの要素をその趣旨において含んでいれば、各学校や生徒の実態に応じて、より具体的な表現を盛り込んだり、いずれかを重点化したり、別な要素を加えたりすることも可能である。



目標を作成する作業に先立って……

- ・各教科、道徳及び特別活動で実現を目指している部分を確認した上で、総合的な学習の時間で育てたい生徒の姿を明らかにしていく。
- ・その際、生徒の実態、地域の実態、学校の実態、生徒の成長に寄せる保護者の願い、生徒の成長に寄せる地域の願い、生徒の成長に寄せる教職員の願いについて考慮することが重要である。

(3) 育てようとする資質や能力及び態度の設定

育てようとする資質や能力及び態度とは、各学校において定める目標を、実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示したものである。したがって、育てようとする資質や能力及び態度には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい生徒の成長の姿が示される。



- ・各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の二つにより、総合的な学習の時間の教育活動を通して「どんな生徒を育てたいか」を明示することになる。
- ・育てようとする資質や能力及び態度の設定には、学習方法に関する事、自分自身に関する事、他者や社会のかかわりに関する事の三つの視点に配慮する必要がある。

(4) 学校において定める内容の設定

総合的な学習の時間においては、内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める。



- ・内容が兼ね備えるべき要件としては、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと、探究的に学習することがふさわしいこと、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結び付いていくこと、などが参考になる。これらを満たす教育的に価値ある課題を、各学校の判断で内容として設定する。
- ・国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題、職業や自己の将来にかかわる課題は、大いに参考にする。
- ・学習対象を定めるだけでなく、学習事項までを明記し、校内で共有することは、その単元計画において学習活動をどのように組織すべきか、さらにそこにおいてどのような支援を行うべきかなど、単元づくりや授業づくりの構想を明確化することに大きく貢献する。

(5) 全体計画の作成

全体計画とは、指導計画のうち、学校として、この時間の教育活動の基本的な在り方を示すものである。具体的には、各学校において定める目標、育てようとする資質や能力及び態度、内容について明記するとともに、学習活動、指導方法、指導体制、学習の評価等についても、その基本的な内容や方針等を概括的・構造的に示すことが考えられる。

6 総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成のポイント

(1) 年間指導計画及び単元計画の基本的な考え方

年間指導計画とは、1年間の流れの中に単元を位置付けて示したものであり、どのような学習活動を、どのような時期に、どのくらいの時数で実施するのかなど、年間を通しての学習活動に関する指導の計画を分かりやすく示したものである。

単元計画とは、生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりである単元の指導計画であり、具体的には、単元指導案で示されることが多い。

(2) 年間指導計画の作成

年間指導計画を作成する意味は、1年間という時間の中で、時間の流れを追って学習活動を構想し、その学習活動における生徒の具体的な姿を想定する点にある。また、学校行事や各教科等の学習に配慮することはもちろん、総合的な学習の時間を有意義なものとする地域素材を十分に吟味して作成することが肝要である。年間指導計画に盛り込まれる主たる要素としては、単元名、各単元における主な学習活動、活動時期、予定時数などが考えられる。



年間指導計画の作成に当たって留意すべきこと

- ・生徒の学習経験に配慮すること。
- ・十分な見通しをもった周到な計画にすること。
- ・季節や行事などの適切な活動時期を生かすこと。
- ・各教科等との関連を見通すこと。
- ・学年間の関連を見通すこと。
- ・弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつこと。
- ・外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること。

(3) 単元計画の作成

単元とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」という意味である。単元計画の作成とは、教員が意図やねらいをもって、このまとまりを適切に生み出そうとする作業にほかならない。総合的な学習の時間では、生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりとなるように単元を計画することが大切である。

総合的な学習の時間の単元計画に際しては、次の二つの重要なポイントがある。

- ・生徒による主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには、生徒の関心や疑問を重視し、適切に取り扱うこと。
- ・問題の解決や探究活動の展開において、教員が意図した学習を効果的に生み出してい

くこと。

＜生徒の関心や疑問を生かした単元の構想＞

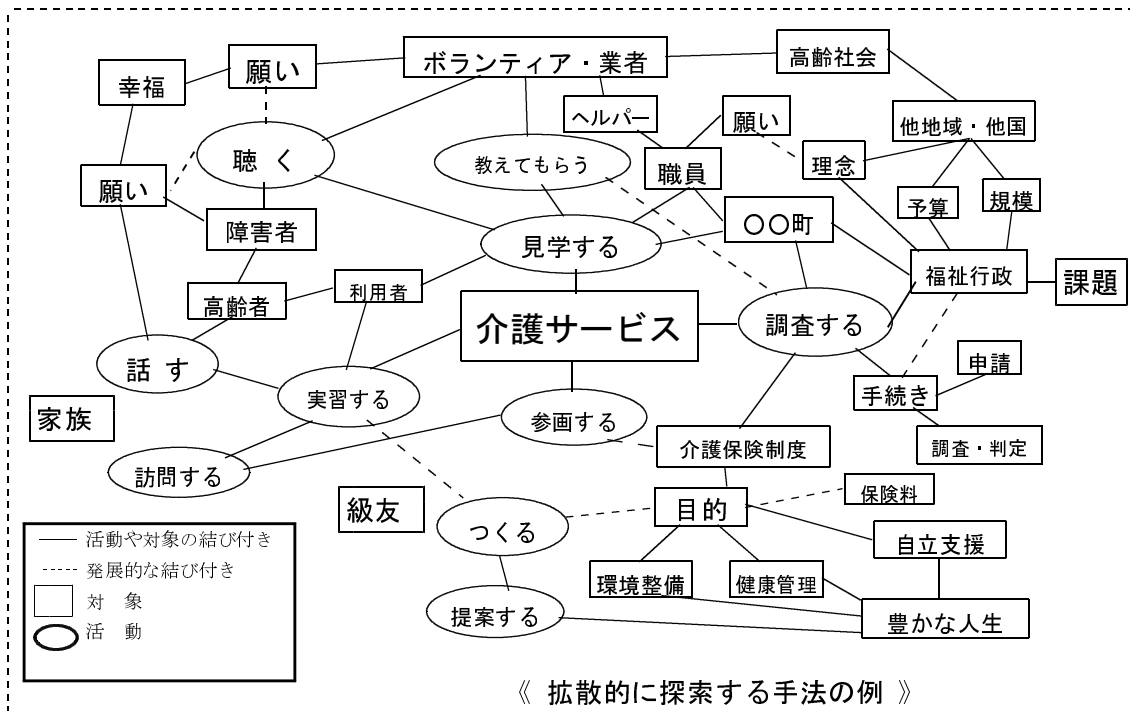
総合的な学習の時間では、生徒の関心や疑問が単元の源であり、単元計画を作成する際の出発点でもある。生徒の関心や疑問をとらえ、単元計画につなげるために、次の3点に留意する。

- ・ 生徒の関心や疑問は、そのすべてを本人が意識しているとは限らず、無意識の中に存在している部分も多いととらえること。
- ・ 生徒の関心や疑問は、生徒の内に閉ざされた固定的なものではなく、環境との相互作用の中で生まれ、変化するものととらえること。
- ・ 生徒にとって切実な関心や疑問であれば何を取り上げてよいというわけではなく、価値ある学習に結びつく見込みのあるものを取り上げ、単元を計画すること。

＜意図した学習を効果的に生み出す単元の構成＞

生徒の目線で丁寧に単元を構想する中で、各学校が設定した目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度が、確かに実現するかどうかを判断していかなければならない。特に、教員はどこでどのような意図的な働きかけをする必要があるのか、またその際に留意すべき事柄は何かなども、具体的に明らかにすべきである。単元を構成するに当たっては、次の2点に留意することが大切である。

- ・ 学習の展開における生徒の意識や活動の向かう方向を的確に予測すること。
- ・ 十分な教材研究を行うこと。



7 総合的な学習の時間の評価のポイント

(1) 評価の基本的な考え方

- 総合的な学習の時間では、各学校が定めた目標及び内容を踏まえて、生徒にどのような力が付いたのかを明確にするためにも、適切な評価をすることが必要である。また、

総合的な学習の時間の評価は、各学校で適切に観点を定め、これに基づいて生徒の学習活動をよりよく改善するものであるということに十分配慮しなければならない。

(2) 生徒の学習状況の評価

- 総合的な学習の時間における生徒の学習状況の評価は、生徒がこの時間の目標についてどの程度実現しているのかという状況を把握することによって、適切な学習活動に改善するためのものである。また、その結果を外部に説明するためのものである。そのためには、生徒の学習状況についてある一定の望まれる姿を想定し、それと生徒の学習状況とを照らし合わせて考え、この学習活動で育てようとしている資質や能力及び態度が適切にはぐくまれ、内容が学ばれているのかを、生徒の学習状況から丁寧に見取ることが求められる。

総合的な学習の時間における生徒の学習状況の評価に当たっては、これまでと同様に、ペーパーテストなどの評価の方法によって数値的に評価することは、適切ではない。具体的な学習状況の評価の方法については、信頼される評価の方法であること、多様な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であることの三つが重要である。

(3) 指導計画・学習指導の評価

- 各学校においては、他の教科と同様に、総合的な学習の時間における指導についても適切に評価し、その改善を図ることが必要である。

指導計画や学習指導の評価に続いて行わなければならないのが、その改善である。改善の方法は、各学校の創意工夫によって具体的には異なるであろうが、一般的には①評価の資料を収集し検討すること、②整理した問題点を検討し原因と結果を明らかにすること、③改善案をつくり実施すること、のような手順が考えられる。

8 総合的な学習の時間の学習指導のポイント

(1) 学習指導の基本的な考え方

- 総合的な学習の時間の学習指導の第1の基本は、学び手としての生徒の有能さを引き出し、生徒の発想を大切に育てる主体的、創造的な学習活動を展開することである。

第2の基本は、身近にある具体的な教材、発展的な展開が期待される教材を用意することである。

第3の基本は、取り上げた課題に対する考えを深め、自己の生き方を考えることにつながる横断的・総合的な学習や探究的な学習となるように、教員が適切な指導をすることである。



第1の基本に示したように、原則としては学び手としての生徒の有能さを引き出し、それを支え、伸ばすことが重要である。しかし、それだけでは学習の広がりや深まりは期待できない。そこで、第2の基本で示したように適切な教材が用意されていることが大切であり、さらに、横断的・総合的な学習や探究的な学習として展開していくように、教員が指導性を発揮することが重要である。こうした教員の指導性と生徒の自発性・能動性とのバランスを保ち、それぞれを適切に位置付けることが豊かな総合的な学習の時間を生み出すことにつながる。

(2) 学習指導のポイント

- 今回の改訂においては、総合的な学習の時間を「横断的・総合的な学習」に加えて「探究的な学習」とすること、この時間において「協同的」な態度を育てること、をこれまで以上に明確にしている。

探究的な学習とするためには、学習過程が以下のようになることが重要である。

- ①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。
- ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする。
- ③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。
- ④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

こうした探究の過程は、いつも①～④が順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあるし、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある。およその流れのイメージであるが、このイメージを教員がもつことによって、探究的な学習を具現するために必要な教員の指導性を発揮することにつながる。また、この探究の過程は、何度も繰り返され、スパイラルに高まっていく。

総合的な学習の時間においては、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視すべきである。それは、多様な考え方をもち他者と適切にかかわり合ったり、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度の育成につながるからである。また、協同的に学ぶことにより、学習の質を高めることにつながるからである。



協同的に学ぶことの価値

- ・多様で多量な情報の収集につながる。情報の多様さと多さは、その後の整理や分析を質的に高めるために欠くことができない。
- ・異なる視点から検討ができる。整理したり分析したりする際に、異なる視点から検討することで、学習に深まりがでる。
- ・地域の人と交流したり友達と一緒に学習したりすることで、相手意識を生み出したり、学習活動のパートナーとしての仲間意識を生み出したりする。

9 総合的な学習の時間を推進するための体制づくりのポイント

- 各学校で作成した指導計画を確実に実施していくためには、校内の指導体制の整備が欠かせない。また、質の高い豊かな学習活動を実施するためにも校内の体制づくりに十分配慮しなければならない。



校内の体制づくりで配慮しなければならないこと

- ・校内のすべての教職員が協力して取り組む体制を整備する。
- ・それぞれの教職員の特性や専門性を生かす。
- ・状況に応じた柔軟な対応が求められることから、授業時数を適切に運用する。
- ・充実した総合的な学習の時間を実現するために、空間、時間、人などの学習環境を整える。

- ・生徒一人一人の興味・関心に応じた学習活動を展開するために、保護者をはじめ、地域の人々、専門家など、多様で幅広い教育力を活用する。

10 指導例

総合的な学習の時間では、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自己の生き方を考えることができるようにすることなどを目標として示している。今回、学習指導要領の改訂により、中学校では「職業や自己の将来に関する学習活動」が新たな学習活動の例として加えられている。

こうした学習活動に関して、本県では、「奈良県キャリア教育プラン」において、小・中・高等学校の12年間を通して、集団生活に必要な規範意識やマナー、人間関係を築くコミュニケーション能力など、児童生徒のキャリア発達にかかわる幅広い能力※の形成を支援し、働くことの意義や社会人として必要な知識・技能を習得できるよう、発達段階に応じて指導すべき内容と活動例を示している。中学校においては、総合的な学習の時間の中で「社会での自立に向けた準備を整えるための活動」として、特に職場体験や上級学校・職場訪問があげられている。

本指導例は、「奈良県キャリア教育プラン」を踏まえ、「職業や自己の将来に関する学習活動」を総合的な学習の時間における探究活動の過程に位置付けたものである。

※ 参考 奈良県キャリア教育プラン 『子どもを自立した社会人へ育てるために』(H17年)より

領域	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力				
領域説明	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協同してものごとに取り組む。	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。				
能力説明	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にしながら行動することができる。	【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たすことができる。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えることができる。	【職業理解能力】 様々な体験を通して、学校で学ぶことと社会生活・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解することができる。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めることができる。	【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行することができる。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行うことができる。	【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組むことができる。

◆第1学年の指導例

(1) 単元名

「未来のわたし」を考えよう

(2) 単元の目標

- 自分の存在を認識し、自分もっている特性に気付くとともに、友達の長所を理解できるようにする。(人間関係形成能力)
- 自分についての情報を整理し、まとめることができるようにする。(情報活用能力)
- 夢や希望を職業に結び付け、今後の方向性をもてるようにする。(将来設計能力)
- 夢や希望を実現するために、中学校生活を充実できるようにする。(意志決定能力)

(3) 単元の展開 (全4時間)

生徒の活動	指導上の留意点
<p>「未来のわたし」を考えよう</p>	
<p>1 「未来のわたし」を想像し、思い浮かぶことを書く。</p> <p>2 二人一組になって、一人がもう一人の書いた「未来のわたし」の姿について質問する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを準備し、3年後、6年後、12年後の自分の姿を考えさせる。 ○ どのような職業についているのかも考えさせる。 ○ 質問し合うことで、未来の姿を具体的に想像させる。
<p>未来のわたしに近づくためにどうすればいいのだろう</p>	
<p>3 今の自分を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の性格や長所・短所、特技など、自分の個性だと思うことをワークシートに書く。 ○自分の個性や特徴を班の友達に聞く。 ○自分が書いたものと友達が書いたものを比べ、感じたことや気付いたことを書く。 ○家族にインタビューする。(家庭での取組) <ul style="list-style-type: none"> ・生まれたときの状況や家族の願い ・名前についてのエピソード ・よいところや直してほしいところなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを準備しておく。 ○ 自分の好きなこと、できることを考えさせる。 ○ 付箋で整理をさせる。 ○ 友達への批判や傷つけるような表現をしないように指導する。 ○ 自分の姿をいくつもの視点から捉えさせる。 ○ 具体的に聞くように指示する。
<p>12年後のわたしに手紙を書こう</p>	
<p>4 12年後の自分に手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○もう一度、3年後、6年後、12年後の自分の姿を想像する。 ○12年後の自分に手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1時間目に使ったワークシートに書き加えさせる。 ○ 最初の書き出しを決めておき、手紙を書きやすいよ

5 書いた手紙を発表する。

うにする。
○ 現実の生活と結び付けて、有意義な中学校生活を送れるように指導する。

◆第1学年の指導例

(1) 単元名

働く意義を考えよう

(2) 単元の目標

- 人間関係の大切さを理解し、礼儀正しくあいさつできるようにする。
(人間関係形成能力)
- 働くことに対する関心を高め、勤労の尊さや意義を理解できるようにする。
(情報活用能力)
- 今の生活や学習が将来の生き方にかかわるということを理解できるようにする。
(将来設計能力)
- よりよい生活や学習を目指して、自ら課題を見つけていくことの大切さを理解できるようにする。
(意思決定能力)

(3) 単元の展開 (全13時間)

生徒の活動	指導上の留意点						
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">働くってどういうこと？</div> <p>1 自分の考えを書く。</p> <p>○働く目的をグラフにし、それに対する考えを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">働くってどういうこと？</p> <p>1. 現在、働く目的についてどのように考えていますか。 とても思う→5、全く思わない→0としてグラフにしましょう。</p> <p>2. 働くことについて、自分の考えていることを書きましよう。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <table border="1" style="margin-right: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">社会のため</td> <td style="width: 100px; height: 20px; background-color: #add8e6;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">夢・目標のため</td> <td style="width: 100px; height: 20px; background-color: #add8e6;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">生活のため</td> <td style="width: 100px; height: 20px; background-color: #add8e6;"></td> </tr> </table> <div style="margin-left: 10px;"> <p>0 1 2 3 4 5</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> </div> </div> </div> <p>2 班で働くことについて話し合う。</p> <p>○一人一人の考えを聞き合う。</p> <p>○班で働く目的をグラフにし、考えをまとめる。</p> <p>○学級全体の場で班の発表を行う。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">働く人に学ぼう</div> <p>3 講座内容を知り、受講する講座を決定する。</p>	社会のため		夢・目標のため		生活のため		<p>○ ワークシートを準備しておく。</p> <p>○ 班のまとめを掲示し、他の班の考えが分かるようにする。</p> <p>○ 講師には、講座のねらい</p>
社会のため							
夢・目標のため							
生活のため							

○講座ごとに、司会・進行役を決める。

4 質問する内容を考える。

○グループ（5～6人）で質問を考える。

5 講座を受ける。

料理の一番の調味料は「愛情」です。料理中に「おいしくなあれ、おいしくなあれ。」とたくさんふりかけることです。



○質問をする。

- ・「なぜ、この職業を選んだのですか？」
- ・「一番うれしいことは何ですか？」
- ・「〇〇さんは、なぜ働いているのですか？」

6 働くことについて、話し合う。

- 講座を通して考えたことをグラフと文章でまとめる。
- グループで自分の考えを出し合う。
- グループで考えたことをグラフと文章でまとめる。

1日職場体験をしよう

7 内容を聞いて、体験する職業を決める。

8 1日職場体験学習の必要事項を打合せをする。

○事業所に電話をして、集合時刻、服装、準備物など必要な事柄を聞く。

9 1日職場体験学習をする。

○職場体験学習を通して考えたことをグラフと文章でまとめる。

10 働く意義について考えたことを作文に書く。

を話し、内容を考えてもらうように願います。

- 講座内容に合わせて、いろいろな視点から質問内容を考えるようにさせる。
- 働く目的は必ず聞くようにさせる。

○ 司会・進行役の生徒がうまく進められるように指導しておく。

○ 大切なことは、メモをとるように指示する。

○ 講座終了時には、感謝の気持ちを伝えるように指導する。

○ 「働くってどういうこと？」でまとめたグラフ・考えと比較し、変化があることに気付かせる。

○ 体験場所の選定と依頼をする。

○ 自分の興味・関心に基づいて決めさせる。

○ 緊急時の対応について指示しておく。

○ これまでの自分の考えと比べさせる。

○ 1年生のキャリア教育のまとめとして、自分の考えを書くよう指導する。

<p>11 学級で報告会をする。</p> <p>○ 友達の発表を聞いて共感できる箇所を付箋にメモする。</p>	<p>○ 付箋を用意しておく。</p> <p>○ 付箋のメモを集約し、来年度の体験に生かせるようにまとめる。</p>
---	--

◆第2学年の指導例

(1) 単元名

職場体験学習にチャレンジ！

(2) 単元の目標

- 新しい環境や人間関係に適応できるようにする。 (人間関係形成能力)
- 様々な職業があることやそれぞれの職業の大切さを理解できるようにする。 (情報活用能力)
- 将来の職業と関連付けて、今の学習の必要性や大切さを理解できるようにする。 (情報活用能力)
- 仕事の進め方を理解し、自分の役割を責任をもって果たすことができるようにする。 (将来設計能力)

(3) 単元の展開 (全25時間)

生徒の活動	指導上の留意点
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分をアピールしよう</p> </div> <p>1 学校に来ている求人票を知る。</p> <p>求人票の例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><○○会社が求める人材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる人。 ・マナーがしっかりしている人。 ・心を込めて仕事ができる人。 ・お客様の話をていねいに聞ける人。 </div> <p>2 履歴書を書く。</p> <p>3 面接を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の特技やよい面をアピールする。 ○ 分からないことをたずねる。 ○ 希望の事業所を伝える。 <p>4 採用通知 (受け入れ事業先の決定通知) を受け取る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>仕事にチャレンジ！</p> </div> <p>5 事前訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事内容、服装、準備物等について話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受け入れ先の事業所が求める人材像を書いた求人票を作成しておく。 ○ 職場では、あいさつやマナーが大切であることに気付かせる。 ○ 自分の特技やよい面をしっかりと書かせる。 ○ 生徒の思いを受け止めるとともに、生徒の適性に合った職場を紹介する。

6 職場体験（3日間）をする。

- 活動日誌を書く。



職場体験を通して学んだことを伝えよう

7 職場体験を振り返る。

- 活動日誌をもとに、学んだことを付箋に書く。
- グループの中で付箋に書いたことを説明し、仲間分けをしながら職場体験を通して学んだことを話し合う。
- 職場体験を通して学んだことを模造紙にまとめる。

8 お世話になった事業所の方や保護者を招いて報告する。

- 巡回して、生徒の活動を励ます。
- 写真の撮影等は、事前に事業所と打合せをし、可能な限り記録として残すようにする。
- うまくいったこと、失敗したこと、ほめられたこと、叱られたこと、またそのときの気持ちを日誌に書かせる。
- 付箋を用意しておく。
- 事業所ごとに5・6人のグループを作る。
- 社会規範やマナー等について学んだこともまとめさせる。
- 事前に事業所の方に招待状を出しておく。
- 感謝の気持ちが伝わるように発表を工夫させる。

◆第2学年の指導例

(1) 単元名

マナー教育 —お金について考えよう—

(2) 単元の目標

- 自分と異なる意見も理解させ、話し合いに積極的に参加できるようにする。
(人間関係形成能力)
- お金に関する情報を収集し、お金を通して社会の仕組みについて理解できるようにする。
(情報収集能力)
- よりよい生き方を目指す上での課題に気づき、解決に向けて取り組むことができる。
(意志決定能力)

(3) 単元の展開 (全4時間)

生徒の活動	指導上の留意点
<p>○ お金の大切さを考えよう</p> <p>1 中学3年間の教育費を考える。</p> <p>○学校に支払う費用を考える。</p>	<p>○ 学校に支払う費用につい</p>

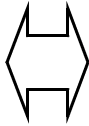
- 習い事に支払う費用を考える。
- それ以外に支払う費用を考える。

2 小遣いの金額についてディベートをする。

月3000円のお小遣いは多い？少ない？

《多いと考える立場》

- ・不景気なのに3000円は多い。
- ・本当に必要な金額？
- ・無駄に使っているのでは？
- ・自分が働いて得たお金ではない。



《少ないと考える立場》

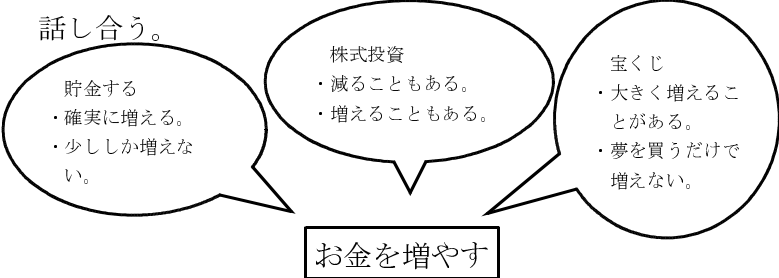
- ・友達とつき合うには必要。
- ・3000円でも足りないことがある。
- ・もっともらっている友達もいる。
- ・1日100円は少ない。

さあ、どっち？

3 お金についての自分の考えをまとめる。

お金を増やすにはどうすればよいか考えよう

4 お金を増やす方法とその方法のメリット・デメリットを話し合う。



5 株式の仕組みを体験する。

- 仮装会社株式ゲームをする。

6 お金を増やすことについて、自分の考えをまとめる。

お金から外国と日本の関係を考えよう

7 外国のお金と日本のお金の関係について考える。

てはおおよその金額を示す。

- 個人差はあるが、かなりの費用が3年間で使われることに気付かせる。

- ディベートでは、対立する人数が半々になるように分ける。
- それぞれの立場に立ち切るように指示する。

- お金を得るには働かなければならないことを話し、お金の大切さに気付くようにする。

- 班対抗として勝敗を競い合い、より活動意欲を高められるようにする。
- お金は簡単に増やせないことに気付かせる。

<p>○外国にはどのようなお金があるのかを調べる。</p> <p>○1ドルは何円か、1ユーロは何円か調べる。</p> <p>8 日本の円の価値がいつも同じではない理由を考える。</p>	<p>○ コンピュータを活用して調べる。</p> <p>○ 円の価値はいつも同じではないことに気付かせる。</p> <p>○ その国のお金の価値は、経済状況や政治状況と結び付いていることを理解させる。</p>
<p>お金から外国と日本の関係を考えよう</p>	
<p>9 マネー教育のまとめをする。</p> <p>○マネー教育でお金に対する見方や考え方がどのように変わったのかを考える。</p>	<p>○ 働いて得たお金をどう使うか、どのように増やすか考えさせる。</p>

◆第3学年の指導例

(1) 単元名

自分の進路は自分で考えよう

(2) 単元の目標

- 時と場所、相手との関係をわきまえて、礼儀正しく接することができるようにする。
(人間関係形成能力)
- 様々なメディアを通して、進路に関する情報を収集・整理し、活用することができるようにする。
(情報活用能力)
- 進路希望に基づいて、目標を立てることができるようにする。
(将来設計能力)
- よりよい進路や生き方を目指す上での課題に気付かせ、解決に向けて取り組むことができるようにする。
(意志決定能力)

単元の展開 (全15時間)

生徒の活動	指導上の留意点
<p style="text-align: center;">10ヶ月後の自分の姿を想像しよう</p> <p>1 10ヶ月後、自分はどうしているのかを考える。</p> <p>○ワークシートに10ヶ月後の自分の姿を書く。</p> <p>○進路についての希望や不安を出し合う。</p>	<p>○ 高校に入学して、新しい生活をしている姿をイメージさせる。</p> <p>○ 進路についての素直に自分の気持ちを話せる雰囲気を作る。</p>
<p style="text-align: center;">高校ってどんなところ？</p> <p>2 中学と高校のちがいを考える。</p> <p>○中学と高校のちがいについて話し合う。</p>	

- 高校生活を先輩にたずねる
 - ・部活の先輩、教育実習生
- 3 高校を訪問する準備をする。
 - 訪問する高校を決める。
 - 書籍、新聞、インターネットなどを活用し、下調べをする。
- 4 高校を訪問する。
 - 校内を見学する
 - 高校生に質問する。

訪問した高校のようすを報告しよう

- 5 訪問して感じたことや考えたことを出し合う。
 - 感じたこと考えたことを書く。
 - 発表する。
 - 訪問した高校のようすを報告書にまとめる。
 - 報告会をする。

自分の進路は自分で考えよう

- 6 進路を考える。
 - 自分の希望する高校を決定する。
 - 努力しなければならないことを考える。
 - 自分の思いを作文に書く。

- 卒業生と事前の打合せをしておく。
- 主体的に取り組む気持ちをもたせる。
- 取材を意識したグループ編成を行う。
- たくさんの高校生に質問できるようにする。
- 質問を考えておき、具体的な情報を得るように助言する。
- 付箋を用意し、感じたことや考えたことを書かせる。
- 訪問した高校ごとにグループを作る。
- 訪問した高校の特色や学校の雰囲気など、よさを伝えるように指導する。
- 生徒の意識を高め、高校進学に向けて主体的に取り組む気持ちをもたせる。

— 作 成 委 員 —

佐々木 義 章	大和郡山市立郡山東中学校	校 長
植 松 利 晴	奈良市立済美南小学校	教 頭
大 西 浩 明	奈良市立済美小学校	教 諭
滝 元 一 史	宇陀市立榛原小学校	教 諭
白 濱 毅	奈良市立富雄中学校	教 諭
松 本 哲 志	奈良県立教育研究所	研究指導主事
山 中 充 子	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指 導 主 事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)